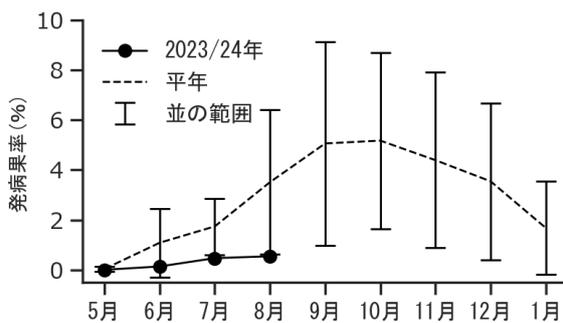


作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや少	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

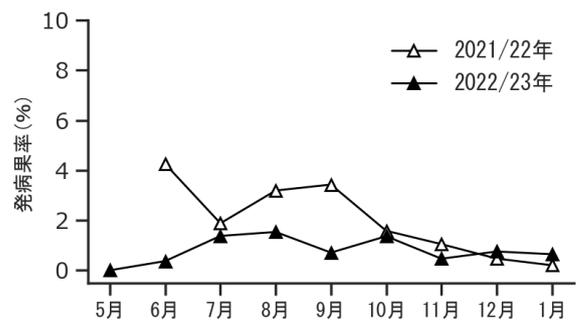


調査結果

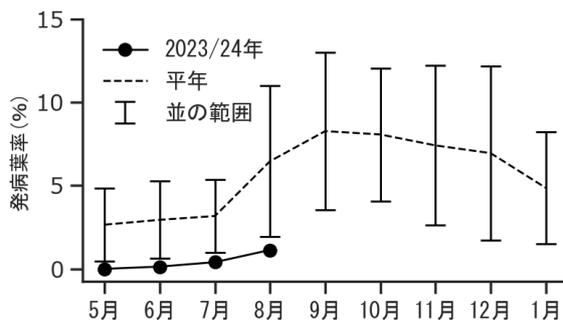
発病果率の推移（今期と平年）



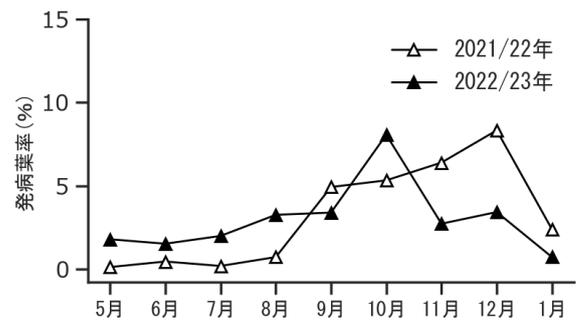
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度0.1（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：69.6%）

防除のポイント

・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

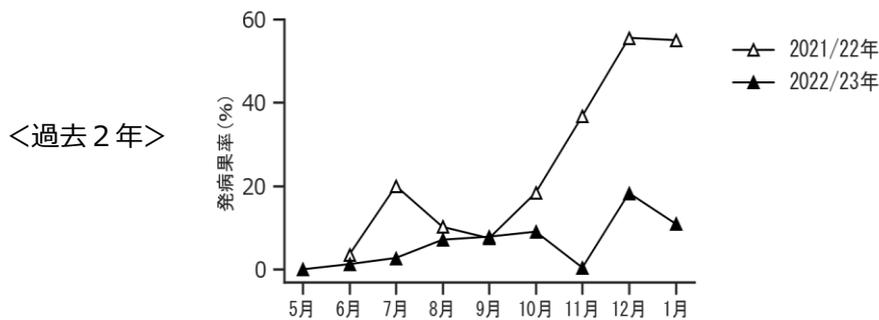
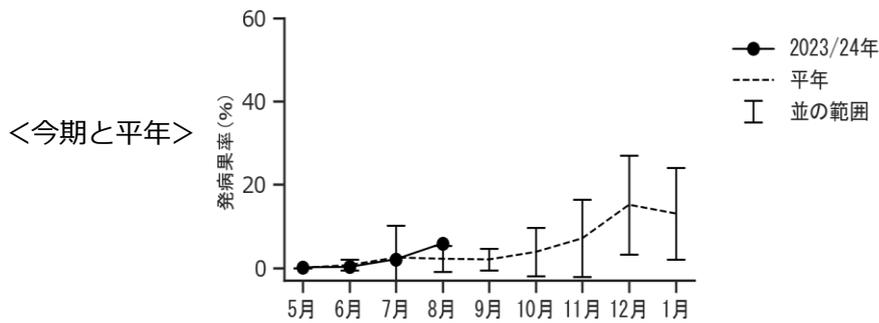


被害葉→

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島	
病害虫名	② 黒点病				
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多			
予報	8 月からの増減傾向	→			
	9 月の発生量（平年比）	やや多			
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）			

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度1.1（平年3.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：45.7%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

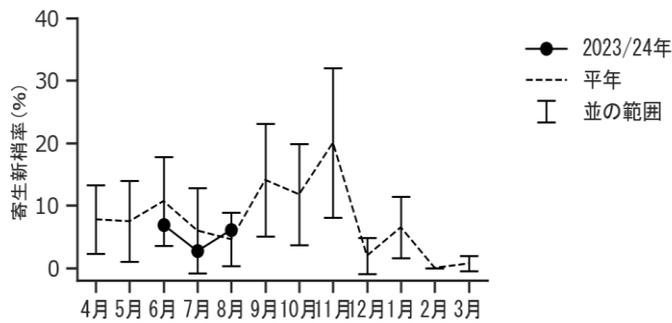
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	



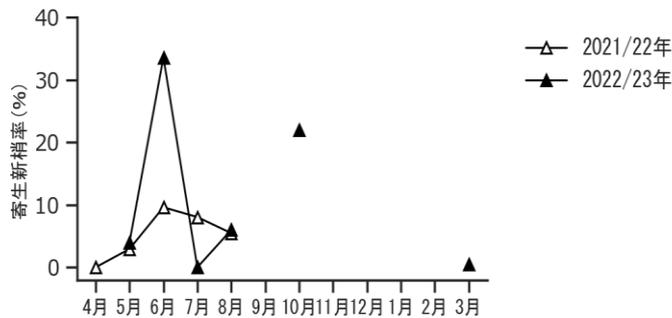
調査結果

寄生新梢率の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率40.0%（平年：46.2%）

防除のポイント

- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。
- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。

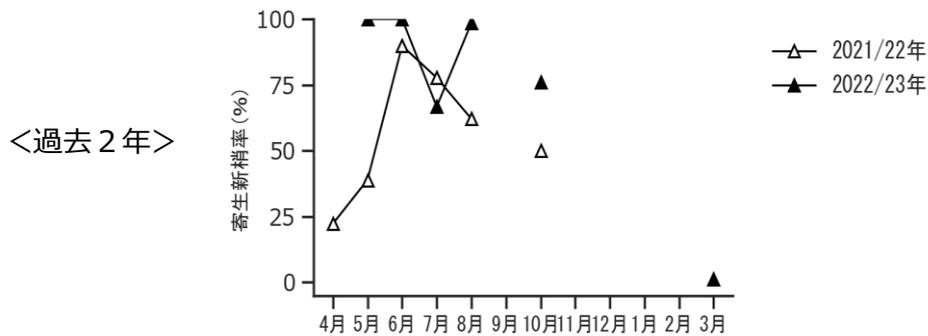
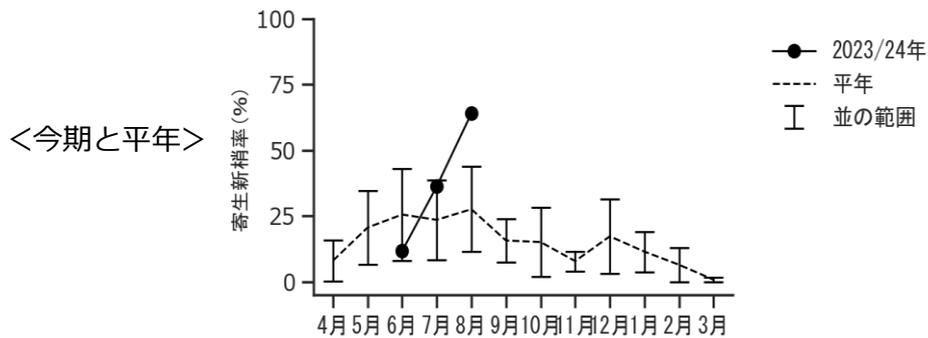


ユキヤナギアブラムシとアシジロヒラフシアリ

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	ミカンハモグリガ		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：83.3%）

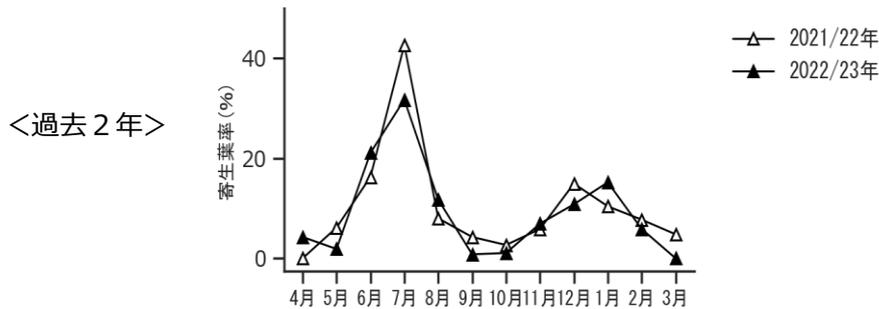
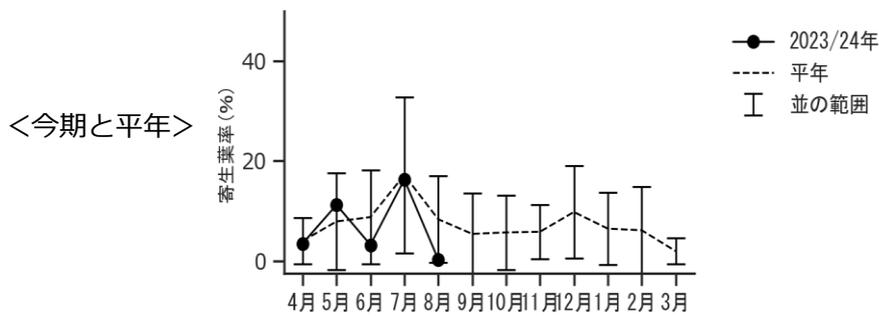
防除のポイント

- ・食害痕にかいよう病が感染して伝染源になるので、被害葉の除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：54.3%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状